

小平市議会定例会 一般質問通告書

再質問の方式 一問一答方式

質問件名 子どもたちが自分らしく過ごせる学童保育へ

【質問要旨】

夫婦共働き世帯の増加に伴い、学童クラブに入所する児童数は年々増加しています。小平市では待機児童を出さない方針で運営をしていますが、定員を大幅に超える学童クラブは後を絶ちません。

学童クラブでは障がい児の受け入れを行っており、障がい枠を設け1クラブ2名から3名の児童を受け入れています。しかし、障がい枠に入らない発達障害などの気になる子の入所も増えているとのことです。2015年に全国学童保育連絡協議会が行なった調査では学童保育を利用する障がいを持つ児童数は19639人とされており、これは2003年に行なった調査時の6358人と比べ約3倍の増加となっています。また、同協議会が2016年に行なった調査によると、学童保育に在籍する児童が学童保育で過ごす時間は学校の長期休みも含め年間平均で約1633時間であり、小学校で過ごす年間平均時間1218時間より415時間も上回っています。学童保育は生活と遊びを通じて児童の発達と成長を支援する場です。その生活の場で発達に気付きのある子どもたちは「じっとしていられない」「友だちとトラブルになる」「整理整頓ができない」「不器用でうまく課題ができない」など周りから見ると困ったと思われる行動をしてしまいます。ですがこれらの行動は感覚統合のアンバランスからとっている行動の場合があります。

どうしてこのような行動をとってしまうのかを考え、行動面からアプローチするのが作業療法士です。岡山県学童保育連絡協議会ではこの作業療法士と学童保育を連携することで子どもと指導員のサポートを行い学童保育の質の向上を目指し実績も上げています。この試みは全国に広がりを見せています。

作業療法士の視点を取り入れ、子ども自身や指導員にアドバイスをすることでその子の「困った」を「分かった」に変え、子どもたちが自分らしく過ごせる学童保育をさらに進めていくために以下質問をいたします。

- ① 現在、学童保育で発達の気になる子はどれくらい在籍していますか。
- ② 学童保育で発達の気になる子への対応はどのように行なっていますか。また課題は何か。
- ③ 学童保育で臨床心理士や作業療法士の巡回相談は行なっていますか。
- ④ 幼稚園・保育園での巡回相談や小学校での巡回相談との連携はどのように行なっていますか。
- ⑤ 作業療法士の視点で子どもたちの発達や成長を支援するのは有効と考えるが市の見解は。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

2019年 2月 13日 小平市議会議長 殿

小平市議会議員 氏名 山崎 とも子

受付番号【 】

26	25	24	23